

令和5年度

平川市議会議員研修視察
美郷会・日本共産党
報 告 書

研修視察テーマ

- 1 HOTEL R9 THE Yard 匝瑳
「コンテナを利用した宿泊施設について」
- 2 千葉県匝瑳市学校給食センター
「地産地消給食について」
- 3 佐原町並み交流館
「歴史的町並みを活用したまちづくりについて」

平 川 市 議 会

1 研修視察期間

令和6年1月23日（火） ～ 令和6年1月25日（木）

2 参加者名簿

水木悟志議員、葛西厚平議員、北山弘光議員、山谷洋朗議員、石田隆芳議員、齋藤 剛議員、齋藤律子議員（随行 事務局総務議事係長 河田麻子）

3 研修内容

（1）コンテナを利用した宿泊施設について

ア 研修日時

令和6年1月24日 前日の宿泊～午前9時10分

イ 研修場所

HOTEL R9 THE Yard 匝瑳 （全34室）

ウ 説明対応

（株）デベロップ 千葉県市川市市川1-4-10 市川ビル8F
営業部長、エリアマネージャー

エ 研修目的

平時は、観光地の宿泊施設として営業しながら、災害時は医療従事者支援レスキュー等の仮設宿泊所などとしての役割を果たしている。

実際に宿泊することにより、その多面的な活用方法を確認し、当市に導入できるかを検証する。

オ 研修結果（担当 齋藤 剛議員、北山弘光議員）

①匝瑳市の概要（令和6年1月31日現在）

人口 33,752人 世帯数 14,856戸

匝瑳市は、平成18年1月23日、八日市場市と匝瑳郡野栄町が合併して誕生した市。千葉県の北東部に位置し、成田空港から車で30分の距離にあり、温暖な気候で年間平均気温が15度である。

②コンテナホテルの概要

平時にはホテルとして運営されている客室を、災害など有事の際に被災地などに速やかに移設し、仮設宿泊所のほかに陰圧診察室や会議室など、現地のニーズに合わせて多目的に利用できる、レスキューホテルである。

【標準客室装備（基本仕様）】

コンテナモジュール13㎡、1台1客室の独立型
ダブルルームとツインルームの2タイプ



ベッド、ユニットバス、トイレ、
テレビ、エアコン、冷凍冷蔵庫、
電子レンジ、加湿式空気清浄機、
テレビ、無料Wi-Fi、デスク、
チェア
(電子ポット、アメニティ、ナイト
トウエア)

【その他館内設備】

コインランドリー、自動販売機、無料ドリンクコーナー、無料軽食コーナー等

③災害時の出動拠点（令和5年12月現在）

関東を中心に中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄に72拠点、2,496室を
配備。

拠点の拡充により、北海道と離島を除く全国へ24時間以内の出動を目指す。

④災害協定締結数（令和5年12月現在）

129協定（国土交通省関東地方整備局＋128市町村）

⑤利用方法

災害地などの指定場所へ出動する場合

指定場所に近い拠点から、客室をけん引またはトラックに積載して移送。

移送に1日、配管等工事は数日で完了、出動要請を受けてから最短3日で利用
可能。

既存の客室をそのまま利用の場合

客室の予約状況の確認など、準備が整ったのちに利用可能。

⑥過去の出動事例

新型コロナウイルス感染症対策に出動

臨時医療施設及び付帯施設、医療従事者休憩施設、PCR検査センター付帯施
設等として、203室を出動。

(例：栃木県・千葉県 50 室 → 長崎市)

防災訓練に出動

大規模地震時医療対策訓練、避難所開設訓練、小・中学校防災訓練等に参加。

⑦質疑応答

Q 結露対策はどうか。

A コンテナ内面と壁の間に断熱材を入れている。

Q 騒音対策はどうか。

A 外部、隣の部屋の音は全く聞こえない。

Q 個人への販売はするのか。

A 個人への販売はしていない。

災害時の対応について意見交換

⑧まとめ、考察

研修前日、滅多に発生しない新幹線架線事故に遭遇し、途中下車となった仙台からこちらのホテルまで、約9時間の移動を経て、精神的にも肉体的にも疲れきった状態での宿泊となりました。



まず、感じたのは、完全なるプライバシーの確保です。隣の個室との隔たりと防音性、そしてまた、居住性も十二分に満足のいくもので、前日の疲れも癒しの空間の下で吹き飛び、翌日の研修を迎えることができました。

研修には、早朝にも関わらず、運営会社営業所がある市川市より、営業部長に足をお運びいただき、説明を受けました。

まず、ホテルの運営は、会社と自治体との災害協定を基本としているとのことでした。実績としては、国土交通省関東地方整備局のほか、北は山形県酒田市、南は沖縄県うるま市など128の自治体と災害協定を締結しているとのことでした。

また、ホテル営業済拠点72拠点あり、有事の出動実績は以下のとおり。

2020年 4月 長崎市50室、6月 千代田区2室、三鷹市2室。

2021年 2月 都内2室、栃木県60室、ホテル2拠点より66室。

2022年 2月 千葉県15室、東京都6室。 3年間で計203室

また、熊本地震では、災害支援者の宿泊施設として利用され、熊本地震以降、九州においては、佐賀1拠点30室、熊本4拠点183室、福岡3拠点97室、鹿児島5拠点170室、大分1拠点38室、宮崎3拠点104室が災害協定を締結しているそうです。

本ホテルには、車両型と建築型の2タイプがあり、移動に1日、インフラ等の配管工事が数日で完了できるようにし、この点もまた魅力を感じるものでした。

実際に宿泊した部屋は車両型で、奥行5,691mm、幅2,268mm、高さ2,896mm、面積13㎡で、普通のホテルのシングルルームと同等の部屋でした。

我が国日本は、世界的にも有数の地震大国であり、ひとたび地震が来れば、大なり小なりの災害が起こります。このたびの能登半島地震においても建物の倒壊などが発生し、被災地住民の住む場所が必要となるなど、常日頃からの災害への準備が必要だと再認識させられました。

また、近年では、集中豪雨による水害などでも災害が頻繁に起こるようになり、対策が必要不可欠です。

よって、本研修で学んだ、災害と観光の両輪となる宿泊施設の導入のため、

- (1) 我が平川市でいち早く東北北三県の拠点としてホテル運営を取り入れる
- (2) 災害協定を締結する

これらを推進すべきであると市に提案し、青森県初の災害に強い市としてアピールし、市民の安全安心な生活のために寄与したいと強く感じた、研修となりました。



コンテナとインフラの接続方法などを確認



コンテナホテルの外観

(2) 地産地消給食について

ア 研修日時

令和6年1月24日(水) 午前9時30分～午前11時

イ 研修場所

千葉県匝瑳市学校給食センター

ウ 説明対応

匝瑳市教育委員会 学校給食センター所員等2名、管理栄養士1名

エ 研修目的

地元食材を使用した学校給食について学び、子供たちの地域への愛着を深め、当市におけるより一層の地元農産物の消費拡大に資する。

オ 研修結果(担当 齋藤律子議員)

①匝瑳市学校給食センターについて

給食の提供数 2,667食(小学校10、中学校3、特別支援1、幼稚園1)

年間給食回数 192回(ご飯139回、パン35回、麺18回)

②活用している主な地元食材

市内産米、赤ピーマン、長ネギ、小松菜、卵、とうもろこし、もやし、もち麦、落花生、トマト、メロン、大豆、いわし、かつお、しょうゆ等

③給食として活用している主な地元食材の目標値

- ・第2次匝瑳市食育推進計画の数値目標の達成状況

令和4年度 目標値 35品目/年

実績値 26品目/年 (達成率 74.28%)

- ・第3次匝瑳市食育推進計画の数値目標の達成状況

令和8年度 目標値 26品目/年

④地産地消給食の実施に対する取組

- ・手作りの給食を心がけている
- ・日本型の食事(和食)を大切に
- ・かむことを意識した献立を作成
- ・毎月19日は「食育の日」、月1回「地産地消デー」の献立を実施
- ・学校給食で使用する食材は、市内産、県内産の食材を使用

⑤学校等での食育

- ・ 栄養教諭・管理栄養士が給食の時間に指導（小学校・幼稚園）
- ・ 食育授業（小学生が栄養を考えながら和食レシピを作成しコンテストに応募）

⑥まとめ、考察

匝瑳市は東京都豊島区の女子栄養大学で行われた第2回（平成19年）全国学校給食甲子園で、1,169校から選ばれた「日本一おいしい給食」に輝いた実績があり、今回の視察には大変期待を寄せていました。

匝瑳市議会議長の「生きることは食べること」の歓迎の挨拶で始まった研修は、地産地消の学校給食を目指す平川市の今後にとり、有意義な研修となりました。

匝瑳市の学校給食センターは、平川市の規模より400食多い食数で実施されています。栄養教諭3名で、手作りの給食を心がけていること、日本型食事（和食）を大切にし、かむことを意識した献立を作成して取組を行っています。

匝瑳市の令和4年度の地元食材の品目導入は、目標値35品目に対し、実施値は26品目で達成率74.28%となっており、平川市の目標値20%と比較し驚異的な数値でした。

また、市町村合併の誕生日にあたる日は、子供達から募集した地元食材を使用した献立で「大匝瑳膳」を小中学校や幼稚園で提供し、お祝いをしています。

近隣の旭市や銚子市と組んで、和食給食レシピコンテストを行い、大賞を受賞した献立が提供される11,000人が食べる東総まんきつ給食を実施し、連携を広げています。

ほかにも、幼稚園から栄養教諭による給食指導や小学校で食育の授業を行い、給食センター発行の給食だよりには、市内の生産者の顔を掲載し生産者の思いをアピールするなど、子供達が食べ物に関心を持つよう、食育に力を入れていることも分かりました。

地産地消給食を継続するには、

- (1) 関係機関や生産者との連携が大切であること
- (2) 地場産物や旬の食材を多く活用しながら、安全で安心な食材を使用する
- (3) 給食の質を落とさず、栄養バランスに優れた魅力あるおいしい給食ということでした。

匝瑳市学校給食センターにて意見交換



匝瑳市は、海に面し、食材に恵まれた地ではありましたが、平川市でも地産地消給食の実施は力を集結し、知恵を絞れば実施可能であり、地元食材の導入率向上を目指すことができると確信してまいりました。



給食の調理風景

(3) 歴史的町並みを活用したまちづくりについて

ア 研修日時

令和6年1月24日(水) 午後2時～午後4時

イ 研修場所

千葉県香取市 佐原町並み交流館、小野川沿い、香取街道周辺

ウ 説明対応

千葉県香取市 生活経済部商工観光課1名、建設水道部都市整備課1名
(現地案内) 佐原町並み案内ボランティア1名

エ 研修目的

歴史的町並みや建物の保存について学び、当市のまちづくりへと活用し、観光誘客の促進に資する。

オ 研修結果(担当 水木悟志議員、葛西厚平議員)

①香取市の概要(令和6年1月1日現在)

人口 70,791人 世帯数 31,385戸

香取市は、平成18年3月27日、佐原市、香取郡の小見川町、山田町、栗源町が合併して誕生した市である。東京から70km圏内、成田空港から15km圏内と首都圏に近く、北部には東西に利根川が流れている。

②香取市の観光資源

国が選んだ4つの宝がある。

- ・佐原の歴史的町並み（国選定重要伝統的建造物群保存地区）
- ・伊能忠敬（関係資料が国宝指定）
- ・佐原の大祭（佐原の山車運行はユネスコ無形文化遺産登録・国指定重要無形民俗文化財）
- ・香取神宮（国宝 怪獣葡萄鏡を所有）

③住民によるまちづくり活動について

佐原の歴史的町並みで、小野川清掃、防災訓練、町並みの案内ガイドを実施「佐原おかみさん会」が主体となって、佐原まちぐるみ博物館を運営

まちぐるみ博物館について・・・【新しい形の生きた博物館】

- ・重要伝統的建造物群保存地区を中心とした各商家などが、それぞれに受け継いできた暮らしや自慢にまつわる品を各個店で博物館として展示している。展示物には、自慢の味や長年培った技なども含まれる。
- ・来街者が各館をめぐることで、佐原の歴史、文化。暮らしそのものと、人の優しさにふれる仕組み。
- ・佐原おかみさん会が最前線でお客さんと接しており、地域の伝統の技や文化に身近にふれることができる。

④佐原の歴史的町並みづくりについて

江戸時代は、利根川の舟運で栄え、江戸への中継地としての重要性が増し、河港商業都市として発展、江戸末期には大都市であった。その後、物資の輸送が舟運から鉄道や自動車輸送に変わると商業活動が停滞し、商業の中心が駅前や国道沿いへと移っていったことから、町並み内に伝統的建物が残っている。

昭和63年に、ふるさと創生事業のアイデアを市民から募集したところ、町並みに関する回答が多数あったことから、

平成元年 市役所内で「地域づくり研究会」が発足

平成2年 市民団体を含めた「まちづくりを語り合う場」が発足

平成3年 「佐原の町並みを考える会」が発足

平成4年 同会が町並み保存計画を市長へ提案

提案を受け、市では佐原市佐原地区町並み形成基本計画を作成

平成6年 佐原市歴史的景観条例、町並み保存事業補助金交付要綱を施行

平成8年 伝統的建造物群保存地区・保存計画、景観形成地区・景観指定建築物
・景観形成基準を告示

現在、江戸時代から利根川水運により繁栄した商家の町並みが残っており、和風の町屋や洋風建築など、時代の変遷を映し出す伝統的建造物が、小野川の河畔や香取街道、下新町通り沿いに佇み、住民の暮らしが息づいている。

このような落ち着いた風格ある地区を伝統的建造物群保存地区及び景観形成地区に指定し、まちをよりよくするため住民の協力のもとに、建築物の外観の保存、再生に努めている。

町並み保存事業補助金

市では、伝統的な建築物の維持や修景に要する費用を軽減することを目的に、建て替えなど建造物の外観とその建造物を支える構造体の改修または補強工事に対し助成。

平成6年度から令和4年度までの実績は、118件。

江戸優り佐原の水辺空間賑わい創出事業

日本遺産・重要伝統的建造物群保存地区に選定されている佐原・小野川の川面や河岸を、提灯等で照らして特別なイベント会場として活用。

江戸の風情のあるナイトライフを楽しめるように、舟上ディナーを楽しむナイトクルージング、町衆の誇りに触れるお祭りや伝統文化体験、佐原河岸での夜市、伝統食の発酵料理のワークショップなどを開催するなど、積極的な誘客活動を実施。

⑤まとめ、考察

研修当日の日本列島は、前日からの冬型の気圧配置で寒く、太平洋側独特の冷たい空風が吹いている天候でしたが、観光客が散策しているのが見られました。

佐原の町並みは、代々続く現役商家の「生きている町並み」として評価され、小野川に架かる忠敬橋周辺に、江戸末期から明治の古い商家があります。川沿いには町家の風景が、町の中央を走る街道沿いには土蔵造りの商家が並びます。そのほとんどが昔からの家業を引き継いで今も営業を続けている商家で、「生きている町並み」として、血の通った暖かさを感じました。

文化財保護法に規定される保存地区は、周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造群で価値の高いものと定義されています。

佐原の伝統的建造物群保存地区は、伝統的建造物及び歴史的景観を保全するため、地区内の建築行為は許可制となっております。加えて、香取市佐原地区歴史的景観条例に基づき、指定された地区内の建築行為は届出制となっており、景観形成への協力を求められます。

私たちが宿泊したホテルについても、全国展開する高層ホテルですが、佐原では、3階建ての低層階で外観も含め、町作りへの配慮が感じられました。

伊能忠敬を輩出した佐原の町並みに関しては、市民からのアイデアが市を動かし、行政が歴史的町並みを残すため条例や計画などを整備し、市民の協力のもと約30年もの長い年月をかけて形成されたものだということが分かりました。

特に、町並みの保存には、旧家の旦那衆や住民の意向が大きく働き、一方的に行政が進めるのではなくて、行政と関係団体が連携して成功した事例だと思いました。

当市においても、尾上地域金屋の農家蔵群など歴史的構築物など現存しているので、保存の在り方や、市民が共同しておこなうまちづくり活動は、香取市の事例が参考になると思いました。

また、誘客に関しても、年間（四季）を通じてイベントが開催され、閑散期がないように工夫が見られましたので、当市においては、特に冬の観光資源の掘り起こしが必須だと感じました。

なお、伊能忠敬記念館には、地図作りの測量の旅の中で、当市の碓ヶ関地域に立ち寄った記録がありました。伊能忠敬が、56歳から17年かけて日本地図を作り上げた功績に触れ、感銘を受けました。これから何ができるのか、改めて考えさせられました。

伊能忠敬の言葉「歩け、歩け、続けることの大切さ」で、報告を締めます。



佐原町並み交流館にて意見交換



佐原の町並みを視察

特記事項

今回の研修視察の行程では、初日の令和6年1月23日に、千葉県山武市を訪問し、「三世同居等支援補助金」について、研修する予定でした。

しかし、JR東日本東北新幹線の架線事故により、訪問ができませんでした。後日、研修資料が届きましたので、情報共有済であることを報告いたします。